

オープンカンファレンス(2016.01.14)

皮膚・排泄ケアにおける 地域連携の取り組み

尾道市立市民病院

皮膚・排泄ケア認定看護師 安保苗美

本日のお話

- 訪問看護師と在宅訪問
- 褥瘡チームで施設訪問
- ストーマ保有者の入所施設との連携
- 褥瘡患者退院後の施設訪問
- 褥瘡研修会



訪問看護師と在宅訪問①

事例

- Dさん 80歳代 男性
- フルニエ症候群：人工肛門造設

入院中

- ストーマケア指導するが患者がやる気なくセルフケアの確立困難。同居の息子にケアを指導。
- 退院時自宅でのケアに不安あり



急遽、訪問看護を依頼

訪問看護師と在宅訪問②

- 退院前に担当する訪問看護師にストーマケア方法を指導

使用する装具の特徴
予測される皮膚障害・対処の方法
困ったことが起きた際の連絡手段

何度か在宅訪問でケアを行っているが、漏れる事があるので一緒に確認してほしい

在宅訪問の様子

- 訪問看護師と共にケアを確認

褥瘡チームで施設訪問①

事例

- Mさん 80歳代 女性 施設入所中
- 仙骨部褥瘡（パーキンソン病あり）
- 定期的に外来通院中→**創傷治癒遅延**
- 皮膚科医師から、ポジショニングや体位変換方法などの指導を施設にしてはどうかと相談あり

褥瘡チームで施設訪問②

- 施設での生活状況を把握するために、**褥瘡対策チームで施設訪問**を提案

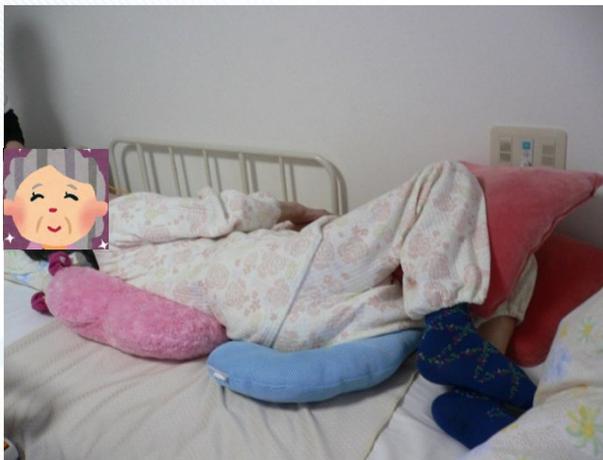
目的

- マットレスの種類、ガーゼ交換方法、創部の評価、ポジショニング枕の種類・使用状況、体位変換方法、車いす移動手技の確認

地域連携室を通して施設へ訪問依頼
「押しかけ隊」と称して褥瘡対策チームで訪問

施設での状況

- ポジショニングや移動方法を指導



Mさんの経過

- 褥瘡：陰圧閉鎖療法を行いながら通院



ストーマ保有者の入所施設との連携①

事例

- Uさん 80歳代 女性 施設入所中
- 閉塞性大腸炎：回腸ストーマ造設（パニック障害あり）

入院中

- 看護師が患者にケア方法を指導するが、セルフケアはしないと拒否。便破棄のみ自分で行う

問題点

- 退院後は施設に戻るが、施設の看護師が回腸ストーマケアに携わったことがない
- 回腸ストーマは皮膚障害が発生しやすい

ストーマ保有者の入所施設との連携②

- 退院前に施設の看護師にストーマケアを指導

習得するまで何度も指導

予測される皮膚障害と対処方法を説明

漏れた場合は日中であればすぐに連絡、来院

定期的にストーマ外来受診

褥瘡患者退院後の施設訪問①

事例

- Tさん 80歳代 男性 施設入所中
- 仙骨部褥瘡

入院中

- 創収縮を図る目的で陰圧閉鎖療法を施行
- 褥瘡の範囲が大きいため4週間では創治癒には至らない
- 退院後は施設に戻られる予定



褥瘡患者退院後の施設訪問②

退院後の褥瘡状態確認の目的で施設へ訪問依頼
褥瘡対策チームで訪問

- マットレスの種類、
褥瘡の処置方法と評価、
ポジショニング枕の使用状況、
体位変換方法

褥瘡研修会開催

- 褥瘡の知識を深め活用するために院内認定制度を開始（6月～12月）
- 研修会案内をHPに掲載（院外の参加もOK）

研修内容

- 6月：褥瘡の基礎知識
- 7月：スキンケア
- 8月：被覆材の効能・使い方
- 9月：褥瘡に使用する薬剤について
- 10月：褥瘡のケア方法について
- 11月：関節拘縮を予防するポジショニング
- 12月：褥瘡と栄養について



褥瘡研修会の様子

- 院外から毎月15~22名の参加者
- 次年度も開催してほしいとの要望があった
- 他施設から、褥瘡に関する疑問や質問を持ってこられていた

まとめ・課題

- 病院と施設の情報提供がまばらなため、定期的に情報交換することで患者の状況や変化を常に知ることができる
- 写真の情報があれば詳細が把握しやすい
- 入院・外来を問わず、夜間・休日のいつでも相談できる場所の確立が必要
- 患者の状況に臨機応変に対応していく必要がある

